

平成24年9月の解説（府県天気予報）

【9月の天候状況】

上旬は、日本の東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、北・東日本では晴れて暑い日が多くなりました。一方、上空の寒気の影響や南からの湿った空気の影響により、西日本を中心に雲が広がりやすく、大気の状態が不安定となって所々で雷雨となりました。また、旬の中頃と終わりには前線の影響により、北日本から西日本にかけての日本海側で雨の降った日がありました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

中旬は、上旬に続き、日本の東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、北・東日本では晴れて暑い日が多くなりました。旬の前半は、西日本と沖縄・奄美でも高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。15日から17日にかけては、台風第16号の影響により、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけて大雨となり、その後は台風から変わった温帯低気圧や日本海の前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、18日は西日本中心に、旬の終わりにかけては、北・東日本で大気の状態が不安定となりました。

下旬は、東・西日本では天気は数日の周期で変わり、北日本と沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなりました。22日から24日にかけては、本州の南岸の前線を低気圧が東進した影響により、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に曇りや雨となり、東日本の太平洋側では大雨となった所がありました。また、旬の終わりは台風第17号の影響により、全国各地で大雨や暴風となり、高波や高潮の発生した所がありました。

月平均気温は、北・東日本でかなり高く、西日本では高くなりました。一方、沖縄・奄美では低くなりました。月降水量は、東日本の日本海側、沖縄・奄美で多くなりました。北日本の日本海側、東日本の太平洋側、西日本では平年並で、北日本の太平洋側で少なくなりました。月間日照時間は、東日本でかなり多く、北日本の日本海側、西日本の太平洋側で多くなりました。北日本の太平洋側、西日本の日本海側は平年並で、沖縄・奄美では少なくなりました。

【9月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は76%で例年値^(注)より5ポイント低く、明後日予報は例年値より8ポイント低い69%でした。各地方の適中率では、明日予報は東海地方と九州北部地方で例年値より6~8ポイント低く、関東甲信地方、中国地方及び四国地方では10~11ポイント低くなりました。明後日予報は北日本、北陸地方及び中国地方で例年値より5~8ポイント、近畿地方、四国地方及び九州北部地方で9~11ポイント低く、関東甲信地方では16ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、例年値と同じか例年値より小さく、関東甲信地方、東海地方、近畿地方及び中国地方では例年値より0.5~0.7小さくなりました。全国平均は例年値より0.3小さい1.5でした。最低気温の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、全国平均は例年値より0.1小さい1.2でした。

^(注)例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の天気予報の利用にあたって】

晩秋になると、冬型の気圧配置になることが多くなって、日本海側ではしぐれの日が多くなり、北日本では雪やみぞれが降るようになります。降水が雨となるか、みぞれや雪となるかは、その時の地上や上空の気温及び湿度などの状況によって変化します。降り始めは雨でも次第にみぞれや雪に変わったり、逆にみぞれや雪が雨に変わったりもします。

雪が降れば視界が悪くなり、積もれば路面が滑りやすくなるなど、雪は雨に比べて降水量が少なくても交通や生活に大きな障害となる場合があります。天気予報で雪が予想されている場合は、雪に関する最新の気象情報等に留意して下さい。